

2022年10月12日

垂水海軍航空隊のものとみられる防空壕保存・活用についての陳情書

垂水市議会議長
川越信男 様

鹿屋市西原3-8-17
大隅史談会
会長 瀬角龍平

垂水市勢発展のため、日夜奮闘されていることに敬意を表します。

さて、表記のことについて、今年4月、「防空壕らしき洞穴の入口がある」との情報が寄せられました。さっそく浜平の「ホテルAZ」の東側のシラス台地下の斜面へ出かけてみたところ、大きな入口を確認しました。口径からすると通常の防空壕と違い、相当大きな深い施設であることが想像されます。

ところで、現地一帯は太平洋戦争中、垂水海軍航空隊（以下、航空隊）があった場所で、その記念碑も近くの国道脇に建てられています。航空隊は終戦間際の昭和19年2月1日の開隊の基地で、飛行機が胴に魚雷を抱いて攻撃するための整備教育基地でした。

元垂水史談会会長の故中島信夫氏の著作『ふるさとの歴史 柗原編』などにも防空壕のことが記されておりことから、単に敵機の攻撃を逃れるだけではない、航空隊の施設防空壕であることは間違いないと考えております。しかし、正確な構造などは解っておらず、終戦直後、米軍に提出した軍事基地としての図面等がアメリカより返還されて、アジア歴史資料センターの資料で閲覧できるだけです。しかしこれもフリーハンドで書かれたものだけに正確さは期しがたいものがあります。

戦後77年を経過して、すでに航空隊のことを知る方々も少なくなりつつあります。航空隊の防空壕は大変貴重な戦跡であるとともに、垂水だけでなく大隅や日本の現代史を物語る生き証人でもあり、しっかりと後世に伝えていかなければならないと考えています。

以上のことから、垂水海軍航空隊のものとみられる防空壕については、戦跡研究者や文化財保護審議員、また専門的知見を有する方々を交えた調査、意見聴取等を行い、歴史教育資料として保存・活用されるよう陳情いたします。